

● 新指定答申文化財の概要

【種別】有形文化財 建造物

【名称】黒瀧神社本殿 くろたきじんじゃほんでん 附 棟札等 つけたりむなふだとう

【員数】1棟 附 22枚

【所在地】松阪市飯高町森 129 (黒瀧神社)

【年代】慶安元(1648)年(棟札による)

【概要】

黒瀧神社の主祭神は菅原道真で、正元元(1259)年に北野天満宮から勧請したと伝えられています。

本殿は三間社流造(さんげんしゃながれづくり)です。屋根は檜皮葺(ひわだぶき)であったものが昭和35年に銅板葺に変更されました。本殿の虹梁(こうりょう)、臺股(かえるまた)、組物(くみもの)等の細部意匠はいずれも江戸時代前期の特色を示しています。主要な細部意匠や加工は優秀で、臺股などに施された彫刻や、組物・虹梁・柱上部等には極彩色の顔料が塗られています。

また、建築年代を示す慶安元(1648)年の棟札(むなふだ)があり、それ以降の改修年が記された棟札も残されています。これらの棟札からは、建物がどの時期にどんな改修をしたのかが分かります。

黒瀧神社本殿は、三重県内では数少ない江戸時代前期の三間社の本殿であり、棟札等により今日まで守り伝えられてきた経緯が分かる重要な建造物です。



黒瀧神社本殿 (東から)



慶安元年の棟札



黒瀧神社本殿 (正面から)



臺股の彫刻